が育むもの

のコミュニティ

インタビュー 秋田光彦 [浄土宗大蓮寺・應典院住職]



が開かれてきた。 ショップなど、年に大小100以上のイベント

多死社会が到来し、 で若い芸術家たちと密に交流してきた秋田氏は、 に弔いの場を提供し、新しき寺としての應典院 送について、 伝統寺院である大蓮寺で壮年や高齢期の人々 何を感じているのか。 コロナ禍を迎えた現代の葬

### コロナ禍を経て、 葬儀は4・0の段階へ

「コロナ禍の2年は、寺院と弔いの視点から捉 」と秋田氏は言う。 3つのフェーズに分けられると思いま

族の権利が蹂躙され、 えるでしょう。これと歩調を合わせ、 [\*1]があらわになったのが第1のフェーズとい えないといった例が多くありました。死者と遺 ければ親の死に目にも会えず、火葬にも立ち会 が大切という時期が続き、病院にも足を運べな らなかった初めの頃は、とにかく生存すること 人々の暮らしと断絶していきました」 「ウイルスの正体が不明で対処のしかたもわか いわば『剥き出しの生』 寺院も

頃には感染拡大を危惧して葬式を辞する住職も 史を誇る大阪・四天王寺が門を閉めたことだ。 少なからずいたとのこと。秋田氏によれば、 れるはずの古刹が閉門したのは象徴的で、 24時間365日いつでも、 特に衝撃的だったのは、 第2のフェー -ズでは以前から供養のミニマム あらゆる人を受け入 1400年以上の歴

> 化によってすでに危うかった寺院の経済基盤が、 よいよ不安定になったという。

く転機が来ているのではないでしょうか」 日本仏教が新たな価値を作り出し、発信してい なるなど、先祖供養の感情が回復するなかで、 欲求と定義して報道したNHKの番組が話題に 高まっているのです。これを『弔い直し』への な喪失感を抱え、あらためて供養したい感情が と葬儀・法要を営めなかった人が心にあいまい います。コロナ禍になってからの期間、 「しかし、ここへ来て第3のフェーズが訪れて きちん

神をもたらしたのである。 の東日本大震災が、 その直後に3・0の段階が訪れる。 費」のごとく扱われる時代になったのだ。 たりするなど、 をサイトで公開したり、葬式不要論が注目され 2・0を迎える。一部の業者がお布施の相場表 にネットの葬儀仲介業者が台頭してきた頃に 葬式の規模が縮小していき、2000年代終盤 町内会や会社の同僚など縁故者が総動員されて それによると、葬式が社交儀礼の一環であり、 田氏は「戦後の葬式の変遷として、これまで 1・0、2・0、3・0の段階があった」と語る。 「弔い直し」が注目される今日に至るまで、秋 た昭和期が1・0。平成以降は不況とともに 葬式がたんに「死者に対する消 日本全土に弔いとケアの精 2 0 1 1年 が、

死者の霊を慰め、 続いてきた民俗的な供養の文化がありました。 「私も被災地を訪れましたが、東北には連綿と 遺族を癒やすために僧侶の姿

> さを見せている。 葬儀や墓の維持はいよいよ難しくなり、 面している。その一方、近年は若い世代を含 にコロナ禍による葬儀の規模縮小などによっ 核家族化や高齢独居世帯の増加で従来型の 寺での座禅や写経が静かなブームになる 死と葬送のあり方はかつてない変化に直 寺院との関わりは葬祭を離れた幅の広 さら

たちは、 や寺の役割をはじめ幅広くお話を伺った。 思想と文化をどのように育むべきか。 を続けてきた秋田光彦氏に、これからの葬送 天王寺の古刹で長年にわたりユニークな活動 そうしたなか、長寿 現状とどう向き合い、 =多死社会を迎える私 死生に関する 大阪・

築物の中に劇場型の本堂やセミナー 年に秋田氏が「葬式をしない寺」として再建し 世界大戦中の空襲で灰燼に帰したが、1997 時代に創建された應典院。本寺とともに第二次 墓も用意し、本堂では通常の葬儀も可能だ。 住職を務める。ひとつは、470年の歴史を持 が求められ、死者との交感の重要性が語られ た。檀家なし、墓なし、葬儀場なしの應典院は、 うひとつは大蓮寺の塔頭 永代供養墓や納骨堂など「お墓の継承者がいな つ浄土宗大蓮寺。古くからの檀家がいるなか、 一般のお寺とはかけ離れた風貌で、 い」と悩む人が多い現代のニーズに合わせたお 秋田氏は性格のまったく違うふたつの寺院の 演劇や美術展、 (寺内寺院)で、 3 現代的な建 ル ・やワー ームを持 江戸 b

ことで『葬式仏教、侮り難し』という捉え方が 人々の間に生まれたと思います。

よいよポジティブに多様化するはずです」 『面』に進化していく。その役割と意義は、 生む場づくりによるコミュニティ・ るライフサポー 実感があります。お寺が関わる場所は葬式とい う『点』だけでなく、 そして今、葬儀と寺は4・0へ向かっている トの『線』、地域のつながりを 介護医療や死後にまつわ ケアとい V う

# 生前墓に集い、来るべき死を意識する

「ともいき堂」で家族のみで行うプランがある 供養墓の「縁」「共念」「共生」でも年1回の合 岸と盂蘭盆の3大法要が合同で営まれる。 う は一切問われない。葬式についても、 同供養会が行われ、 シンプルで愛らしい墓碑が安置され、会員が集 生前予約を基本に入会後は戒名・俗名を刻んだ 可能な「ともいき堂」内の納骨壇「共念」、 に包まれた屋外納骨堂「縁」、少人数の葬儀も 4種類ある。生前個人墓の「自然」、豊かな緑 承継墓のほかに、 らも、大蓮寺の墓は多様だ。檀家を対象とした 伝統寺院としてのたたずまいを大切にしなが 「蓮華の会」による生前交流のほか、 対応は自在で柔軟だ。 の納骨廟「共生」。特に「自然」では、 継承者不要の墓域や納骨堂が いずれも過去の宗教・宗派 春秋彼 永代 堂

CEL March 2022 CEL March 2022 14





ポ

る。代表的なのが、「NPOりすシステム」

と

-ト全般におけるネットワークを構築してい

契約者らがすでにお墓に葬られ たくさん見てきました」 参加者は同じ墓へ入る いずれは自分も入るお 上/大蓮寺墓域の一画に並ぶ生前個人墓の 「自然」。 下/屋外納骨堂の「縁」。大理石のプレート の下に、愛らしいガラスの取っ手のついた 納骨スペースがずらりと並んでいる。

として交流していた人の死を知り、時間軸とし だんだんと供養を担う当事者の身ごなしになっ 墓の前で伝統的な供養のリハーサルをしつつ、 ての縦のつながりも実感する。 合同法要では、 者やご夫婦のみで、継承者がいない状態です。 ていく。そんな姿を、 た人たちへ祈りを捧げ、 人々との横のつながりを得る。さらに「墓友」 「『自然』の生前契約者の方はほとんどが単身 供養の予行演習で、 横軸と縦軸がク

スする場所が大蓮寺の墓であり、

単身者の増

生

悩み事を専門家へつなぐ支援を行い、ライフサ いから、介護医療や相続など人の死に関連する ち外部と内部をつなぐ中間領域であるという思 だけではない。「お寺は縁側」(秋田氏)すなわ なっているという。 つきが死を自分事として身近に捉える契機に 前契約者の口からは自然に「葬式も住職にお願 おけるセーフティネットがあるのだ。実際、 したい」との言葉が出るといい、墓との結び 、無縁化が進む時代、ここには葬儀と供養に 大蓮寺がサポ

するのは墓や葬式

式や納骨、 上の事務、 生前や死後のサポートにあたる仕組みだ。 と称され、 らかじめここに預託。この契約は「生前契約」 知られ、入院・老人施設入居時の保証人や医療 終末期や死後のサポートを提供する組織として 協働で行っている終活サポー 同NPOは、単身者や夫婦だけといった人に 認知症を患った場合の任意後見、 大蓮寺は同NPOと協働することで 相続の手続きといった死後事務をあ トだ。 葬

## 死生観を育んできた「葬式仏教」の力

しょう」 自分自身の余命における相談事へ転換していく 構えてしまうところ、 これによって、 は今まで仏事相談が中心だったのが、だんだん らかに変わっていくと考えています。 ることで、 ら間違いないだろうと安心してくださいました。 でいる人は多いのですが、初耳のNPOでは身 たのです。檀家さんでも後継者がいなくて悩ん 存の檀家さんのなかにも、 私自身は、このようにサポ っていきました。 お寺に持ち込まれる相談事の質が明 お寺の専門性は拡張していくで すると評判を聞きつけた既 菩提寺が恊働しているな 利用者が増えてい トの範囲を広げ 具体的に

秋田氏は語る。 れを大切にして死生観を育むのもまた重要、 と言われるまでに弔いと深く関わってきた。 一方で、 これまで日本のお寺は「葬式仏教」 と そ

思っている、そういった『理由はわからないけ べて死生観につながっています。 れど、ちゃんとしておこう』という感情が、 親の法事はしなければならないものと漠然と 禍で葬儀が満足にできなくて喪失感を覚える、 を媒介にして作り上げられてきました。コロナ てくるものであり、 というのは言葉だけではなく、体験から生まれ だと感じます。そんな折に大事になるのが、 ばよいのだろうと悩むのは、日本人特有の現象 人たちが養ってきた生と死の考え方で、 「死生観を学ぼうとしたときに、 日本人の場合はお墓や葬式 何を参照す そう捉えれば 死生観 先 n

がり、永代供養墓とリョ・・・・をもったに預託する仕組みが2016年にできあ 「葬儀と埋葬は大蓮寺に、 死後事務をりすシス

は葬式とお墓だけが残ったというのが現状だと 代とともに公共サービス化されていき、 益的な場としてのお寺があったはずですが、 利他的精神や 活を成り立たせていました。そこには、 カルで生み出される互恵的な関係が生 『おかげさま』の信心があり、 寺院に 仏教の 時 公

実際、 か つて地域のなかでお寺が果たした公

演やシンポジウムが活発に展開されてきた。 まちづくりなどの実践家や研究家を招聘して講 ーク」では、教育や福祉、アー 弔いや死生観とは直接つながりのない 宗教、

原点に立ち返る活動」と秋田氏は言う。 芸術活動に見えるが、これらは「日本のお寺の 「かのP・F・ドラッカーは著書『非営利組織

思います。

お墓を求めにくることは死生観の入

入れ、そこから生じる縁を大事にしてほしいと

いるのです。

初めはお墓の相談でも

V

い。お寺に足を踏み

無宗教といわれる日本人でも、

死生観を求めて

なたのお墓ですよ』と指し示されて、

『住職、

り口に立たれるということであり、『ここがあ

すごく安心しました。

これから元気に生きてい

ます』とおっしゃる人もたくさんいます。

お

入されていますが、昔は必ずしも国任せではな 芸術文化は公共サービスとして官から公金が投 あった点も忘れてはならないと思います としてさまざまな人を受け入れてきた歴史が 所』[\*3]としての寺があり、 で言う『無縁社会』とは正反対の意味の『無縁続 しているのではないでしょうか。中世には、 同時に地域の自治拠点としてのお寺のことを指 集団 [\*2]による社会事業とも思われますが、 ある』と書いています。これは、 (NPO) は、 の経営』の日本語版序文で『最古の非営利機関 私たちが生きる現代において、教育、福祉、 日本にある。奈良の古寺がそれで 社会的シェルター いわゆる行基 今

思います」 NPOとしてのお寺の源流をたどって

化祭「コモンズフェスタ」が行われ、

さまざま

トパフォーマンスやワークショップが開

ほ かに

:も年3、

4 回

0

「應典院寺子

始められた「應典院舞台芸術祭」は、

ケアに挑んできたのが塔頭の應典院だ。

ル型の本堂で再建直後の1

9

97年から 劇場主催

に捉えることで、「面」としてのコミュニティ・

大蓮寺におけるライフサポー

トをさらに広義

ではなく應典院という場に集う市民が主催する

98年からは23年にわたり、総合芸術文

子屋がよく知られており、歴史的に見ると病院 た日本のお寺本来の姿に立ち返る試みなのだ。 の勧進興行があった。應典院の活動は、こう 能や狂言を奉納したり、 きた寺院も多い。そして芸術文化については、 があることがわかる。すなわち秋田氏の言う、 益には〈学び、癒やし、 福祉、芸術文化〉だ。教育としては寺 社会福祉施設のような役割を果たして 新寺建立の寄付のため 楽しみ〉の3つの役割

### そして看取りを学ぶ場終活、看護・介護、

ですね」

式仏教」が育んできた確かな死生観。

日本人に習慣化、定着化した、

いわゆる「葬

仏壇や墓

生について学ぶスター

トラインといえるだろう。

**^無縁所、としての「葬式をしない寺」** 

のだとしたら、我々にとって確かにそこが死と で先祖を供養し、手を合わせることで安心する 墓を持つことで、

生き方の質が変わっていくん

れていますが、 DGsなど環境問題に関する話題が取り沙汰さ 者に5分間の法話を行ってきました。最近はS 「二十数年来、 当日の公演準備をする劇団の若 こうした問題は横軸のつながり



ガラスの骨壺に収められた遺骨が並ぶ。

「ともいき堂」内の納骨壇「共念」(写真左手奥)には、

17 CEL March 2022



問題として説き直すと、 れるんです を行うと、 ういった課題を浄土宗の教えと関連させて法話 スも大事かもしれませんが、 もよく響くようです。国の公的な制度やサ にある未来を大切にしないことから起こる。 である現代の我々 若いアー Ą の利益ばかりを追求し、 ティストたちの心にはとて 彼らは熱心に聞いてく 一人ひとりの心の 縦軸 ー ビ そ

気持ちになった、 という人たちも少なくないの

に驚いています」

は、 寺」。 む場だということに気づくのだ。 という活動のあり方を通じ、そこが死生観を育 働、教育の3つを指針にしています」(秋田氏) はなく、必ずみんなでシェアを行い、 フェに通ううち、 くる。しかし、 らお墓や葬式のことを話すのだろう、 ラーをゲストに迎えての「おてら終活カフェ」 に多くなってきたという。僧侶や終活カウンセ 最近はお寺を終活の場として提供する機会が特 自他ともに認める「日本一、 その代表例だ。参加者はお寺での終活だか しかし集うのは若い人ばかりではなく、 毎回広範な話題が提供されるカ 「話者が一方的に話すだけで 若者の集まる 相談、 とやって 協

族、

そして看護師自身の心のケアを学ぶ場とし

チュアルな問題を話しやすい

お寺が、患者や家

専門家にとっても学ぶべき余地が多く、

スピリ

死を目前にしての看護、介護、看取りの問題は とお寺の連携を強化する機会も設けられている。 護師とのコラボレーションにより終末期の医療

て活用されているという。

「特に浄土教は、臨終儀礼や今のホスピスで

0

應典院にはまた、 大切な人を亡くした悲し

結ぶことで、

元に祀り、画中の仏様と本人の手を五色の糸で とえば、阿弥陀来迎図をまさに死にゆく人の枕 マネジメントする役割があったと思います。た おり、どうやって往生を遂げるかのプロセスを ケアに通じる手続きについて文献が多く残って

死後に往く場所のビジョンを具現

と静かに向き合うグ フ・ケ ア [\* 4]

や

看

應典院 「コモンズフェスタ」 で開かれた 「詩の学校」。 右手奥には本尊が見える。

月1回「ともいき堂」で開催される「おてら終活カフェ」の様子。

写真提供(中央・下)/應典院

すが、幸いそんなこともありませんでした。そ るのでは』との拒否反応があるかと思ったので か、墓地に静かに眠る死者へ向けて演じている える大蓮寺の墓域を前に、生きている観客のほ れどころか、 そうした場に坊さんが出ていくと『布教され 劇団員のなかにはステージから見

化するなどは、その典型でしょう

定の宗教観を押しつけようとは考えていな NPOや専門家と連携しつつ、「開かれた寺」 「縁側」としての役割を大切にしたいという。 いえ、 秋田氏はそうした活動のなかで特

行っていきたい。 代だけに閉じることなく、 周産期ならぬ周死期と呼んでいますが、 くの 年齢になり死を考えるようになる時期を、 を設けていきたいと考えています。ある程度の チュアル・ケアとは言い切らず、 小さな子どもにも、 「寺は確かに布教施設ですが、より大きな間口 が理想です」 ・ケアという一番広い間口で向き合って 演劇をしている若い世代にも、 その親世代にも、 全世代型でケアを コミュニ スピリ その年 私は

## 寺院の新しい役割コミュニティ・ケアこそ

ティ 向かうのだろうか。 縁の結び直しにおいて、 が應典院」を立ち上げた。つながりの希薄化か 力しての り組みを視野に入れ、 ら生じる地域の問題解決やコロナ禍で途切れた ちの保健室」、 会との連携で病院以前の健康相談のための「ま ・ケア寺院宣言!」を行い、大阪府看護協 田氏は2021年の年頭に「コミュニ 「訪問看護ステー さらに株式会社ナ また日本のお寺はどこへ 氏自身は今後どんな取 ション・さっとさん ースケアと協

應典院だけでなく全国の寺院が、

け皿になったら、 度や公共サービスを利用しきれない人たちの受 全国7万4000あるという寺院が、 ます。多死社会にあって無縁化が進むなか、 なく福祉的な性格を持つようになると感じて ケアの世界で一番重要とされるのは、生 すごいことが起こるでしょう。 役所の制

は、新たな信頼関係を築くことはまずできませいいといっても、終日ベッドの上にいる末期ではどうすればいいのか。信頼できる第三者でも きいですね」 か……つなぎの場、 る。そんな時にお寺という場所が持っている空 性を築いていけるかが、地域の大きな課題にな ん。そこで、ケアを担う側がどう前倒しで関係 いをとすすめていますが、 最期が近づいたら本人と医療者、 前の意思表示の問題です。 もちろん各宗派や各寺院には、教義があり、 時間的包摂の大きさが役に立つのではない 縁側としての寺の役割は大 では家族がいない人 ACP[\*5]では、 家族が話し合

送り出していくのが秋田氏の願いでもある。 りに多くの人を引きつけ、縁を結んで寺の外へ る寺」とも呼ばれる應典院が、そのたとえの通 タルのあり方の実践。そうした局面で「呼吸す ら上手に開いていく、 てはいけない、 信念もある。ただ、それが外部を阻んでしまっ と秋田氏は考える。結束しなが そんなソー シャルキャピ

分蓄えてきました。 を与えるお寺になりたい。そのための資源は十 「悩める現代人に、つながりという社会的処方 これからは、 それをどう活

> が65歳を迎える日本で、 高齢者となり、 り添い続ける寺院でありたいと思います」 題を解決するのではなく、これからも問題と寄 ていた本音が出てくる。 よく話を聞いてみれば、そこにご自身の隠され 門を通る表向きの理由はさまざまですが、よく たい』『終活に不安がある』など、皆さん、山かすかが課題です。『親の供養について相談し 2025年には団塊の世代800万人が後期 その点、すでにある問

取り組みは、私たちに深い示唆を与えてくれる 振る舞うようになるのか。2つの寺院の多様な 2040年には団塊ジュニア 人々は何を考え、どう

- イタリアの哲学者ジョ 会的・政治的な生)」 を奪われ、 れ、「ゾーエー(生物的な生)」しか・アガンベンの言葉。「ビオス(社
- 畿内一帯で広く社会事業を行い、行基自身は聖武天皇より東大僧・行基(668~749年)を中心に形成された信仰集団。持たない状態のこと。

\*

- 地縁・血縁のしがらみを超え、職業や階層を問わず流れ者や芸寺造立の責任者に任ぜられた。
- Advance Care Planningの略称。人生の最終なのこと。

\* \* 5 4

ケアについて話し合い、本人の意思決定を支援するプロセス。来の変化に備え、本人・家族・医療・ケアチームが医療および 人生の最終段階において、



秋田光彦(あきた・みつひこ)

・脚本に関わる。1997日科卒。ぴあ株式会社在勤中、 5年、大瀬寺・ 大阪市生まれ。明治 97年に劇場型寺院助中、多くの映画の別・明治大学文学部演のパドマ幼稚園園長。

院)がある。 に)がある。 ケアとアート――分かたれた者たちの共生のために』(生活書会活動最前線』(共著・ちくま新書)など、編著に『生と死いなさい』(メディアファクトリー)、『ともに生きる仏教―― メディアファクトリー)、『ともに生きる仏教――阪・應典院の挑戦』(新潮新書)、『今日は泣いて應典院を再建。著書に『葬式をしない寺――大